

令和2年度 事務事業評価シート (H31実績評価)

事務事業名		1677	観光資源開発事業		重点プロジェクト		1		
担当所属		401000	経済部 観光振興課						
予算科目	R2	1-070104	一般会計 - 商工費・商工費・観光事業費						
	H31	1-070104	一般会計 - 商工費・商工費・観光事業費						
施策	基本構想	01	1 誰もが誇れる元気未来都市づくり						
	政策	02	2 交流・賑わいが生まれる観光まちづくり						
	施策	06	6 観光の振興						
	基本施策	01	(1) 観光資源の発掘・活用と拠点づくり						
事業類型	(ソフト系) 自主的事業		評価対象	■	経費区分	施策経費	支出区分	負担金	一部
副施策	1	-	2	-	実計対象	■		補助金・交付金	一部

事務事業の概要

事業期間	毎年	平成 17 年度 ~	年度対象	中山 康範	内線	3113
法令	無		例規	無	筑西市を訪れる観光客等	

関連計画等 筑西市観光推進のためのアクションプラン

事業の目的
この事業によって対象をどのようにしたいのか
観光パンフレット並びにノベルティグッズの作成や各種媒体を活用した情報の発信により、筑西市の魅力を県内外へPRするとともに、各協議会等へ参画することにより、連携してイベントなどに参加していく。加えて、通年で観光客の誘致が見込める観光資源の発掘・活用等を見出し、交流人口の拡大を図り、もって本市の観光振興に寄与することを目的としている。また、2019年7月11日にオープンした「道の駅グランテラス筑西」と連携し、一層の交流人口の増加、拡大を図っていく。

具体的な事務事業の内容、手法、手順

事業の内容	全体事業概要	自治体、道の駅、観光協会及び関連の観光団体などと連携しメディアや旅行者を含めて市内外へのPRを図る。
	31年度事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県主催による観光キャンペーンや埼玉県日高市での観光物産展など、市外県外での観光・物産PRを実施。 ・ JR東日本との連携による「駅からハイキング」等を実施。 ・ 商工振興課及び農政課と連携し、台東区との交流事業やまるごとにつぼんでの観光PRを実施。 ・ 3市連携による結城・筑西・桜川観光連絡協議会では、各市の観光資源等を巡るバスツアーを実施。 ・ 観光資源調査・発掘事業では、茨城大学の協力を得て観光資源視察会を実施。観光商品具現化のヒントを得た。

事業費の内訳 (千円)

		総事業費	平成30年度 実績		平成31年度 実績		令和2年度 予算	
事業費	財源内訳	国庫支出金	0	3,733	8,198	4,240		
		県支出金	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0		
		差引：一般財源	0	7,574	9,660	10,888		
事業費計(A)		0	11,307	17,858	15,128			
人件費	従事職員数(人) [正規：臨時嘱託]	1.50	0.00	1.65	0.00			
	人件費(B) [正規：臨時嘱託]	12,266	0	13,802	0			
フルコスト(C) = (A) + (B)			23,573	31,660				

指標の推移

活動指標 1	指標名	市外イベント参加回数				単位	回
	目標値	2	目標年度		目指す方向	↑	
	考え方・式等	県観光物産協会等で実施するイベントに参加する事により、当市を県内外にPRできる。					
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	達成率(%)	令和2年度見込	
実績	26	28	21	1,050.0	10		
成果指標 2	指標名	情報発信回数(観光協会HP更新回数)				単位	回
	目標値	24	目標年度		目指す方向	↑	
	考え方・式等	観光協会ホームページの情報発信を推進する。(12ヶ月×2回=24回)					
	年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	達成率(%)	令和2年度見込	
実績	39	36	36	150.0	36		
目標に対する達成状況の評価	積極的に観光PRを展開し、かつ、観光協会ホームページの更新回数を増やすことにより、当市のイベント情報等を広く発信することが出来た。						

状況の変化等

社会情勢の変化	FacebookやTwitterなどのSNS等を通じ、インターネットやスマートフォンを介した情報発信が一般化している。		
市民等からの意見・要望	市民や観光客からは、季節ごとのイベントなど、詳細な情報が欲しいという意見がある。		
市以外での類似事業	● 無	○ 有	→ □ 国 □ 県 □ 民間 □ その他
	実施機関名		事業名

結果評価

評価の観点	
評価内容	評価結果
目的の妥当性	
1. 事務事業の目的は、総合計画の施策目標に合致しているか。	合致している
2. 市が主体的に行うべき役割の事業か。	必ずしも行うべき事業とはいえない
3. 市民ニーズ等を反映しているか。	ある程度反映している
4. 特定の個人や団体に受益が偏っていないか。	偏っていない
5. 市民との役割分担は適切か。	適切である
事業の有効性	
1. 類似事業との再編や統合はできないか。	できる (部分的にできる)
2. 成果を向上させる余地はないか。	ある (少しはある)
3. 廃止・休止した場合の影響はあるか。	影響がある (大)
事業の効率性	
1. 成果を落とさずに事業費を削減できる余地はないか。	ない
2. 成果を落とさずに人件費を削減できる余地はないか。	ない
3. 受益者の費用負担や受益機会に適正化の余地はないか。	該当しない
事業の現状・担当コメント (評価に対する課題等)	<p>情報発信やPRは結果が伴ってきている。</p> <p>今後は、新型コロナウイルス感染拡大収束後、いかに本市に足を運んでいただけるかを考え、既存の観光資源の磨きあげと新たな観光資源の発掘に努めるとともに、道の駅との連携や本市の優れた観光資源を広く全国に向け紹介、宣伝し、本市の認知度向上と受入体制の整備を図ることにより、交流人口の拡大を図り、地元経済の活性化に寄与していきたい。</p>

課長評価

課長意見	<p>地域資源をいかに活用して、観光客の誘致を図っていけるのか今後も具体的な対策を考えていく必要がある。</p> <p>筑西市観光振興推進協議会が作成した「筑西市観光推進のためのアクションプラン」に基づき、その具現化を図るために現在、諸々進捗している状況であり、その成果も出てきている。</p> <p>しかしながら、全世界で蔓延する新型コロナウイルス感染拡大の状況から訪日外国人客が激減しており、今後、訪日外国人の入出国動向にも傾注しつつ、近隣地域から本市へ足を運んでいただけるようマイクロツーリズムに向けた仕組みづくりが必要であると思料する。</p>
来年度の事業の方向性	見直し
改善策	内容
	改善の期間

- ・筑西市観光資源調査・発掘事業業務委託内容の充実を図り、魅力ある観光資源の開発とPRに努める。
- ・道の駅との連携を図り、交流人口の拡大を図っていく。

令和2年度～令和3年度